

「聖書と侘びの心」講演会 in 滝山教会 (2016年7月9日)

この度、高橋敏夫先生をお迎えし、滝山聖書バプテスト教会ではヨシュア会と茶道の会の合同で標記「聖書と侘びの心」のお話を頂戴した。日本に於ける、茶道の起こりから順次歴史をお話下さり、戦国武将と千利休を通して、茶道の侘び茶とキリスト教との関わりを話された。茶道の「もてなす心」や「仕えるさま」は私達に対するイエス・キリストの姿そのものであ



そのものであ

滝山聖書バプテスト教会教会員 高木弦
り、また茶道で目にする「和敬静寂」は愛のある調和、そして尊敬・畏敬、尊厳と清さの中にある平安はキリスト教の信仰に繋がると説かれた。日本固有の文化としての「侘びの心」は聖書の語る神の慈愛・やさしさが中心で、茶道の根底には聖書の教えが流れていると言う。主イエス・キリストは私達の罪を赦し、恵みを与え下さっている。神への感謝の祈りは一期一会の心で、神との対話であると教えられ、参加者の一人ひとりの心に響いた。これから、私達はキリストの香りを放つ者として他人に心から仕え、もてなす者として歩む事を心に刻み込まれた。

日本ホーリネス教団 築館キリスト教会でのお交わりに感謝。 (2016年8月27日)

春日部福音自由教会の皆さんが気仙沼教会の支援に来られる途中、是非にと築館教会にお泊まりいただきました。築館教会は2年前から無牧で、正会員は姉妹1名のみ。教会の解散を本部より打診されましたが、「栗原から福音の火を消したくない」というその姉妹の強い思いによって、教団の中では「巡回地」という名称で残りました。牧師は3~4ヶ月に1度来て礼拝がもたれています。それ以外の礼拝は、以前に収録された礼拝の説

仙台福音自由教会 菅原正道
教CDを聞いています。もう一度牧師を迎えて、名実共に「教会」として歩み出したいと願っています。私達はともかく、唯一の教会員の姉妹にとっては、滅多にない他教会のクリスチャンとの交わり。お抹茶を頂きながらの良きお交わりに、心から感謝しています。ただ、春日部教会の皆さんには、十分なおもてなしが出来ず、申し訳ない思いです。ありがとうございました。

気仙沼 文化講演会 (2016年8月29日)

気仙沼での文化講演会も、4年連続です。多くの市民に聞いてほしいので、初めての方を優先し、ご案内しています。それでも、何人かは毎回出席されています。それは、利休や右近に対する興味が増すからではないでしょうか。私もそうでした。偉人の一人と漠然と考えていたこの二人の人物が、戦国末期の混迷する時代の中で苦悩しつつ、その苦悩と真摯に向かって生きてきた姿に、やはり混迷する世界に生きる私としては心打たれるからです。「山姥の文箱」を手元に置いて大切にされた利休、また、若い日にかつての主君を裏切った右近、どちら

気仙沼聖書バプテスト教会 日出忠栄
も深く人間の「原罪」を自覚し、それだけにその「原罪」を解決し、罪の赦しと永遠の生命までも提供してくださる神の御子、イエスキリストの十字架の真実、真理をしっかりと見つめて生きた人物ではなかったかと。この講演会がもっと各地で開かれて、もっと多くの人たちに聞いてもらいたいと切に願っています。



第1回特別公演 高山右近の信仰と茶の湯 (2016年11月12日)

ユスト高山右近(以下、右近)列福式盛り上げ企画として、特別公演が昨年11月12日に玉造教会小聖堂で行われた。

講師に高橋敏夫名誉牧師(春日部福音自由教会・表千家教授)を迎え、64人が参加した。

列福式に向けて、右近の信仰と、右近がどのように日本文化に融合したキリスト教精神を表現したかを語った。

高橋牧師は、右近が千利休から学んだ「侘び茶」は、人の生き死に触れる深い憐みであり、茶室の中

ユスト高山右近列福運動推進委員会

で人と人が交わるぬくもりを、感じられるものであったと話した。右近は、イエスの福音を生活の中で感じ取り、茶の湯をきわめたように、信仰と生活を一致させていったと語った。

右近の信仰と茶の湯の深いかわりを知り、イエスの福音を少しでも伝えるために、日々の出来事や出会いを通して、イエスの交わりを深め、その実感をも自分の言葉で表現することが肝要だと、参加者は感想を述べた。

阿武山福音自由教会 (2016年11月13日)

阿武山教会 久保田典彦

2016年11月13日(日)、高山右近のことをよく研究されている高橋敏夫牧師が、高山右近ゆかりの地・高槻にある阿武山福音自由教会にお越しくださいました。

案内のチラシを準備し、知人・友人に案内しました。当日は、5名の新来者を迎えて、22名の礼拝となりました。

親友の細川忠興に宛てた「高山右近書状」が掲げられ、礼拝メッセージ「心配事の対処法」が、語られていきました。

右近は、「私は、南海に趣き、命を天に懸け、名を流します。私のこのような生き方は、如何？ どう思われますか。」と、忠興に問いかけました。

高橋牧師は、礼拝者全員一人一人に、「あなたにとって、生きるとは？ 死とは？ 何ですか。」と問いかけ、答えを求めていかれました。

礼拝後の「愛餐会」も、より親密なふんいきの中で、礼拝で語られた内容が話題となり、主なる神さまの臨在と祝福を覚える感謝な時となりました。

高槻は、高山右近が城主だった440年前、2万5千人

の領民の内、1万8千人(72%)がクリシタンだったという、" 聖霊なる神による大いなるリバイバル " がなされていった町です。同じ恵みにあずかれるよう、祈り続けています。

